

## 獣医発生学用語（第2版）の刊行によせて

Nomina Embryologica Veterinaria (NEV)に記載の INTRODUCTION によると、NEV は 1994 年に初版が刊行されました。2006 年に第 2 版が発行されましたが、2017 年には改訂第 2 版として公開されています。なぜ、第 3 版とならなかったかについては、INTRODUCTION によると Nomina Anatomica Veterinaria (NAV)や Nomina Histologica Veterinaria (NHV)との統一性に重点を置いたことによると説明されています。また、第 2 版と改訂第 2 版との違いを「青字」で示していましたが、項目数として第 3 版を唱うほど膨大な変更を伴わないことによるのでしょうか。これらの詳細は世界獣医解剖協会(WAVA)のウェブサイト(<https://wava-amav.org/index.html>)を直接参照してください。

一方、我が国で発行されたものを精査すると、平成 12 年(2000)に刊行された日本中央競馬会発行の「獣医解剖・組織・発生学」に掲載されているものは NEV 初版(1993 年と記載されていますが、実際は 1994 年)をそのまま和訳したものであり、その後の第 2 版については日本獣医解剖学会が和訳活動を継続していませんでした。つまり、ここに公開する「獣医発生学用語集」は紛れもなく第 2 版ということになります。20 年以上にわたる怠慢を深く反省します。

本書は「獣医解剖学用語」と異なり、ところどころに訳者によって付された注意点(\*)が見られる点です。「獣医解剖学用語」、「獣医組織学用語」、「獣医発生学用語」を通じて感じることですが、WAVA が中心となって進めている「獣医関連用語」には、我が国で教授している内容と齟齬(というか、ここまで必要か?という「驚き」と「疑問」)が存在しています。とくに NEV に関連したところでは、用語の 3 分 1 が「奇形学」に関連している点です。我が国の発生学教育は、主に正常発生を中心に学部 2 年生に開講されているように思います。一方、奇形(先天異常)の成因として遺伝因子(染色体異常など)や環境因子(病原体、化学物質など)が考えられていることから、より広範囲の獣医学の知識を必要とします。つまり、奇形の理解は学部 2 年生では難しいと感じます。また、実際の奇形(先天異常)を目の当たりにする機会は、現場の獣医師にとっても数少ないのが現状ではないでしょうか。あるいは目の当たりにできたとしても、その成因を正確に把握できるとは言い難いのではないのでしょうか。このことから、発生学用語の網羅的解釈を卒後に実施するのを感じます。

専門用語の理解は「解剖学・組織学・発生学」の理解そのものであり、日本獣医解剖学会／分科会活動の中心を占める必要があります。目まぐるしく変化する世界・社会のなかで、地に足をつけた編纂を今後も続ける覚悟をともに誓いましょう。

2023 年 6 月

日本獣医解剖学会 会長

昆 泰寛

獣医発生学用語を利用する方へ

Nomina Embryologica Veterinaria (N.E.V.) の命名法の原則は、Nomina Anatomica Veterinaria (N.A.V.) および Nomina Histologica Veterinaria (N.H.V.) のそれと同じである。

1. 形態学的概念は、ごく限られた例外を除き、単一の用語で表す。
2. 公式リストでは各用語はラテン語でなければならないが、各国の形態学者は、公式のラテン語の用語を使用する言語に自由に翻訳することができる。
3. 各用語はできるだけ短くて簡単なものでなければならない。
4. 用語は覚えやすく、何よりも指導的・説明的な価値を持つものでなければならない。
5. 地形的に密接な関係にある構造物には、Arteria gonadalis, Vv. gonadales のように類似した名称をつける。
6. 区別する形容詞は、一般に、major と minor、superficialis と profundus のように、反対語を用いるべきである。
7. 固有名詞から派生した用語（エポニム）は使用しない。

鉤括弧内の用語は、次のような場合に使用する。

- 同義語、例えば Zygota [Conceptus], Mesoderma somaticum [Mesoderma parietale] など。
- 一部だけを示したい場合、例えば Digiti definitivi [separati], Arcus pharyngei [branchiales] など。
- ギリシャ語の二重母音 (ae と oe) を含む代替語、例えば Cecum [Caecum], Estrus [Oestrus];
- 左右の構造、例えば Cornu [dextrum et sinistrum]。
- ギリシャ語で prefix または suffix として機能する用語、例 Testis [Orchis], Tuba uterina [Salpinx], Lien [Splén]。

丸括弧内の用語は、次の5つの目的で使用される。

- 不定形または不規則に発生する構造、例 M. sterno(brachio-)cephalicus, Adenohypophysis (pars pharyngea);
- 特定の構造の部分的または複数の起源を示すため、例えば、膻 (partim)、マレウス (plerusque)。
- 咽頭[鰓]構造の数値指定 (例 Saccus pharyngeus primus (I))。
- N.A.V., N.H.V. または N.E.V. の他の場所でのより詳細な記述への参照用。例 Uroenteron (Organa urinaria, N.E.V.参照)。
- 該当する構造が特定の動物種を指定するためのもの、すなわち、Bos taurus (bo), Canis familiaris (ca); Capra hircus (cap), Carnivora (Car), Equus caballus (eq), Felis catus (fe), Ovis aries (ov), Ruminantia (Ru), Sus scrofa domestica (su), Ungulata (Un)。用語の後に動物種の指定がある場合、その構造は家畜哺乳類の中でその種にのみ存在することを示す。ただし、種の指定がないからといって、その構造がすべての家畜に存在するとは限らない。

Dermis unguiculae, ungulae, cornus など比較可能な、または相同な構造は続けて記載し、かつ/またはコンマで区切る。